

秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の進捗状況について

平成25年8月に策定した「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画」は、平成25年度から28年度の4年間を計画期間としており、全体としては、概ね順調に進んでいる。

基本方針	1 屋外スペースと建物、施設の整備	5 お互いを認め合う地域と社会	
	2 交通機関の利便性の向上	6 高齢者の就業や市民参加の機会の増加	
	3 高齢者の住環境の整備	7 高齢者の情報環境の整備	
	4 高齢者の社会参加	8 保健・福祉・医療サービスの充実	

行政中心の行動計画

1 主な取組の進捗状況

基本方針	取組・事業	指標	H26目標値	H26実績値 見込み	H26評価	H28目標値
1	都市公園バリアフリー化事業	バリアフリー化した都市公園数	97公園	111公園	A	103公園
	融雪施設改良事業	箇所数	25か所	21か所	B	32か所
2	高齢者コインバス事業	資格証明書交付率	55%	57.69%	A	65%
	バス交通総合改善事業	マイタウンバスにおけるコインバス利用者数	62,931人	71,729人	A	66,244人
3	住宅リフォーム支援事業	リフォーム実施比率	4.0%	3.3%	B	4.5%
	住宅改修に関する適正化	申請の不明点の確認回数	150回	150回	A	150回
4	官民連携秋田駅周辺活性化事業	アルヴェ入館者数	3,200千人	3,360千人	A	3,200千人
	図書館資料整備経費	中央図書館明德館大活字本貸出冊数	1,520冊	2,319冊	A	1,680冊
5	エイジフレンドリーシティ構想推進事業	エイジフレンドリーシティの認知度	90%	68.7%	B	100%
	家族・地域の絆づくり推進事業	絆づくりイベントの参加者数・認知度	900人 55%	1,322人 43.9%	B	1,100人 60%
6	介護支援ボランティア制度運営経費	高齢者のうちボランティア登録者の割合	0.9%	0.4%	B	1.5%
	高年齢者就業機会確保事業費補助金	シルバー人材センター会員数	900人	855人	A	1,000人
7	文書管理費	文字の大きさ12ポイント未満の市民向け申請書等の割合	35.7%	37.3%	A	31.0%
8	地域包括支援センター運営事業	地域包括ケア会議開催回数	38回	57回	A	38回
	認知症サポーター養成事業	サポーター数	4,500人	3,800人	B	4,500人

○評価の定義

A(達成済み又は達成見込み)	目標値を達成済み又は達成見込み
B(著しく遅れている又は困難)	目標値の達成が著しく遅れている、又は困難
-(評価対象外)	目標指数の設定が困難なため、評価対象外である

2 個別施策の進捗状況（まとめ）

※事業数は再掲を含む

項目		年度	事業数	A評価		B評価		評価対象外	
全体		25	171	89	52%	52	30%	30	18%
		26	166	89	54%	51	30%	26	16%
基本方針1	安全安心で誰もが集える屋外スペースと建物、施設の整備を進めます	25	35	17	49%	11	31%	7	20%
		26	34	15	44%	12	35%	7	21%
基本方針2	交通機関の利便性の向上を図ります	25	11	5	46%	2	18%	4	36%
		26	10	6	60%	1	10%	3	30%
基本方針3	高齢者の住環境を整備します	25	10	7	70%	2	20%	1	10%
		26	10	6	60%	3	30%	1	10%
基本方針4	高齢者の社会参加を図ります	25	35	28	80%	4	11%	3	9%
		26	35	30	86%	3	8%	2	6%
基本方針5	あらゆる世代がお互いを認め合う地域と社会をつくります	25	11	4	36%	5	46%	2	18%
		26	11	3	27%	6	55%	2	18%
基本方針6	高齢者の就業や市民参加の機会を増やします	25	14	5	36%	9	64%	0	0%
		26	13	6	46%	7	54%	0	0%
基本方針7	高齢者の情報環境を整備します	25	10	4	40%	2	20%	4	40%
		26	10	5	50%	1	10%	4	40%
基本方針8	保健・福祉・医療サービスを充実させ、地域社会の支援体制を整えます	25	45	19	42%	17	38%	9	20%
		26	43	18	42%	18	42%	7	16%

行政中心の行動計画については、26年度に実施した166事業のうち、「目標を達成済み又は達成見込み」のA評価が54%、「著しく遅れている、又は困難」のB評価が30%、「目標指数の設定が困難なことによる評価対象外」が16%となっており、全体としては概ね順調と評価している。

基本方針ごとに見ると、基本方針5で、B評価がA評価の2倍となっており、意識の向上が課題となっている。基本方針6の就業・ボランティアの分野ではB評価がA評価を上回っており、基本方針8では、A評価とB評価が同数となっている。

そのほかはA評価が多くなっており、特に基本方針4ではA評価が9割近くとなっている。